

Rohm Music Friends[♯]

ローム ミュージック フレンズ

2021.3 | No.11

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



ジュール=アレクシ・ミュニエ「ハーシコードのレッスン」
Jules-Alexis Muenier Piano lesson.
© Bridgeman Images / amanaimages



ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。



Rohm Music Friends

No.11
2021.3

目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 2020年度 奨学生のご紹介
- P09 2019年度奨学生 報告会
2020年度奨学生 認定式
- P10 フレンズたちのSTAY HOMEレポート
- P18 ローム ミュージック フレンズからのお便り
奨学生レポートより
- P27 ローム クラシック サイエンス演奏企画
- P29 奨学生一覧

「ローム ミュージック フレンズ」とは 1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業に関わった音楽家。
2021年2月現在 計4,636人
※複数の事業に関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	493人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。	64人
ミュージックセミナー受講生	ローム ミュージック フレンズが講師となり、 世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。	5人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	333人
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から 音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,625人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,363人



活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.11

Daichi Fujiki

藤木 大地 [カウンターテナー]

2008~2011年度奨学生

給付時の在籍学校:
ウィーン国立音楽大学大学院



©hiromasa

Profile

2017年4月、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に鮮烈にデビュー。アリベルト・ライマンがウィーン国立歌劇場のために作曲し、2010年に世界初演された『メディア』ヘロルド役での殿堂デビューは、東洋人のカウンターテナーとして初めての快挙で、現地メディアから絶賛されるとともに、音楽の都・ウィーンの聴衆から熱狂的に迎えられただけでなく、日本国内でも大きなニュースとなる。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール声楽部門にてカウンターテナーで初の第1位を受賞。2013年には、ポロニヤ歌劇場にてグループ『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。2017年、ファーストアルバム『死んだ男の残したものは』(キングインターナショナル)をリリース。2018年には、村上春樹氏原作の映画『ハナレイ・ベイ』の主題歌を担当、同時にマーティン・カッツ氏共演による待望のメジャー・デビュー・アルバム『愛のよるこびは』(ワーナーミュージック・ジャパン)を発表。2020年2月、自身が東京文化会館からオファーを受け企画原案・主演を務めた新作歌劇『400歳のキャストラート』が上演以前より多方面から注目を集め、大成功を収めた。同年10月には、新国立劇場2020/2021シーズン開幕公演プリテン『夏の夜の夢』に妖精の王オーペロン役、続けてパッパ・コレギウム・ジャパン オペラシリーズ ヘンデル『リナルド』でもタイトルロールを務め、その圧倒的な存在感と、唯一無二の美声で聴衆を魅了し、オペラ歌手としての人気を不動のものにする。パロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活動を展開する、日本で最も注目される国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。

[Official Website <https://www.daichifujiki.com>]

—音楽を始めたきっかけ、声楽をはじめたきっかけは。

中学校が混声合唱の強い学校で、男子部員は運動部から応援部員という形で掛け持ちでやっていたりする学校だったんです。ぼくは野球部に入っていたんですけど、音楽の先生が僕のことを誘ってくれて、合唱部の練習に週一くらいで参加するようになったんですよ。そうしているうちに、歌うことが楽しくなったし、もっと好きになって、それで上達したんですよ。そんな生活を送っていた中学3年生のときに教育実習の先生が来たんです。その先生が「藤木君、一人で歌ってみたら」と言って、シューベルトの「アンデムジーフ(音楽に寄せる)」という曲をくれたんですよ。それを文化祭で一人で歌わせていただいたりする機会をもらって。同時に自分でコンクールを受けてみようと思うようになったんですね。そういう風に歌う場をいただいたり作ったりして楽しくなったというのが中学時代。高校に入って、将来の仕事としてはマスコミを志望してたんですけど、続けていた歌が楽しくなって、本格的に声楽の先生のところに初めて行って、自分は音楽の勉強がしたい、となりました。そこから音楽大学に行く勉強に受験勉強を切り替えました。それがきっかけと言えばきっかけです。

—高校卒業後、東京藝術大学に進学されましたが、いつ頃、歌手になる決心をされたんですか。

大学に入ってから、エリートコースっていうのが何となく見えてきて。だからまあ自動的にそういうものを目指して、明確なものがないまま、

2011年11月、ローマ国際宗教音楽コンクールのファイナルでライバル達と。優勝は一番右のソプラノで、2019年新国立劇場に出演。



2012年7月、国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクール世界大会のファイナルにて受賞後、世界への道が開けた日。



大学にいたという感じだったんです。でも大学4年生になると上京した地元の同級生の就職が決まってくんですよ、それでやっぱり焦るんですよ。彼らは社会人になることが決まってくるのに、ぼくは理由がないままにいわゆる良いコースだとされている大学院を受験しようとしている、と。それで、歌をやめるなら今だになって思ったんですよ。とにかく一人になる時間をつくりたいと思って漫画喫茶に1ヵ月間入り浸ったんです。自分がどうするのか考えた結果、大学院を受験しようとして自分の中で決意ができて、当時習っていた先生も受かるだろうと期待してくださっていたんですけど、落ちたんですよ。それで急に先真っ暗になったんです。じゃあ卒業後、食べていく方法を考えないとなるときに、新国立劇場のオペラ研修所にもし受ければ3年間は奨学金をいただけるながら勉強できるっていう。ただそれはすごく狭き門だったんです。でも結果的に卒業間近のバレンタインデーに合格して首の皮一枚つながったっていう感じでした。そこで初めてオペラというものを勉強して。真っ白だったので逆に良かったかもしれない。劇場にいるのでいわゆるプロの世界っていうものをすごく間近で見る機会をいただいて、あと外国の講師や歌手と接することで、自分もいつか外国で歌いたいとか、留学したいって、そこでちゃんと思った感じです。

—新国立劇場オペラ研修所修了後、ポロニヤに留学されました。どのように留学先を決めたのでしょうか。

研修所に教えにこられていたイタリア人の先生にコテンパンにやられたんです。でもそれだけ

じゃなくて、もし基礎からやり直す気があるなら一緒に勉強しようって言ってきて。それでこの先生のもとで留学したいと、それでイタリアのしかもボローニャっていう風なチョイスになったんですね。

—その後、ウィーンに留学されたそうですね。

イタリアにいたときに、外国で仕事をするっていうのを実現したくて、自分で劇場に手紙を書いて郵便でやり取りしてオーディションをいっぱい受けたんですね。そのなかで、当時アイゼナハというところで監督をされていた阪哲朗さんにもちょっと歌を聞いていただいたり。そんな風につつをあたったり、申し込んだりしていたんですね。でも結果が出なかったの、1年経って日本に帰ったんです。

ただ僕はやっぱ外国で仕事をしたいという意欲が強かったので、もういちど留学を目指しました。僕が訪れた街のなかで一番好きだったのがウィーンだったんです。ウィーンって音楽的な観点からいうとすごく大きな街で、ドイツっていうよりウィーンのほうが性に合ったこともありす。それでウィーンに行くための準備をしようとなったんです。

—ウィーンではウィーン国立音楽大学大学院文化経営学研究所へ進学されました。そのころ、ロームの奨学生だったかと思うのですが、どんなことを学ばれたのでしょうか。



2011年1月。カウンターテナーに挑戦すると決めてから初めてのレッスン。ウィーンにてAshley Stafford氏によるマスタークラス。

日本に戻っていた間、自分にしかできないオペラ公演のプロデュースとかを勉強したいって思うようになって。経営学を学べる場所をリサーチして結果的にウィーン国立音楽大学に合格しました。入ってみたら、すごくいろんな人ばかりで。例えば、ライナー・キュッヒルさんの弟子だけどマネジメントをやりたい、とか。グラフィックデザイナーもいたし、年齢も僕よりも20歳上の人とかもいたし。そこで学んだ科目は、経営学・経済学・会計学あとは美学とかかな。それをやりつつ学校の外では、歌のレッスンを受れたり。僕は宮崎国際音楽祭にどのように若いオーディエンスを連れてくるか、っていうのを修士論文として提出しました。

—そのころ学ばれたことは、現在も活かしているのでしょうか。

ぼくは2020年から大学で教をはじめていて、今の若い学生に、セルフマネジメントの講義をしたりして。そういう伝えるっていう意味でも役に立っているし、自分が舞台に立つ立場だけじゃなくて、運営や主宰をするという立場に立ったときにどういう考え方をするかとか、そういうものが欲しいかなとか常に考えて。結局音楽の仕事っていうのは人がつくるじゃないですか。それを学問の視点から知ることができたのは良かったと思っています。

週末は、ウィーンの日本人硬式野球チームでピッチャー。音楽以外の知人もできて、仲良くしていただきました。



—奨学生だったときにテノールからカウンターテナーに転向されました。転向されたきっかけを教えてください。

直接的なきっかけとしては風邪を引いてテノールの歌声が出なくなりました。どうしようと思って裏声で歌ってみたらうまくいったんですね。だから客観的なポジティブな意見が30個くらい集まったらレッスンを受けようかなって思って。イタリアの先生のところまで行ったり、イギリスの先生に聞いてもらったり。それで、ポジティブな意見が50個くらい集まって、幸いまだロームミュージックファンデーションの奨学金もいただいていたので、レッスンをまず受けてみよう。テノールの仕事もひと段落して2011年からレッスンを受けはじめたという感じでした。

—その後、カウンターテナーとして初の日本音楽コンクール優勝、ウィーン国立歌劇場でのデビューなどを経験されました。そして2017年にはロームミュージックフェスティバルに出演いただきました。

ロームミュージックフェスティバルでは大学の同級生の松原友くんと一緒にだったんですね。大学のころ、彼はバリトンで僕はテノールだったんですけど、20年経って、彼はテノール、僕はカウンターテナーになって、椅子が1つずつずれたっていう話をしました。確かあのとき、三ツ橋敬子さんに初めてお会いしたんですけど、そのあと何回か共演したので、きっかけを作ってくれたなと。いろんな人にまとめて会える機会ってなかなかないので、楽しかったですね。

2回の留学と海外での挑戦をずっと応援してくださった恩師・鈴木寛一先生には、一時帰国の度に近況報告をしました。



2020年7月、5か月ぶりの公演。びわ湖ホールでのリサイタル。ハグできないから、渾身のひじタッチ。

—今後挑戦されたいこと、目標は。

せっかくウィーンで歌えたので海外の他の劇場でも歌ってみたいという思いが強い。メトロポリタン歌劇場とかスカラ座でも歌ってみたい。教えるのも楽しいですね。若いころは何にでもなれると思うから、学生が何かになるための、アイデアとかヒントは提案したいし、そういうことは楽しいです。あとは、姿かたちは出なくても映像作品で自分の歌がそこで流れて役に立つこともいいなと思う。歌は、自分が良い音楽ができていかなと思えるうちはやろうと思うんですけど、もし楽しくなくなったらやめようと思うんです。やっぱり明日何があっても昨日までの活動がすごく満足いくものだったからいいやって思えるような活動をしていきたいですね。

—最後に音楽家を目指す若者へのメッセージをお願いします。

若いころに音楽をやる環境があるっていうのはすごく幸せだと思います。音楽を始めるきっかけのない人もいっぱいいるなかで音楽家を目指す人はもう音楽と出会っているわけだから、その出会いはとても尊いことなんです。演奏家になるにしても、演奏家じゃない形で音楽に関わる人になるにしても、仕事としては音楽に関わらないとなったとしても、音楽のことは好きでいてほしいです。音楽を好きでいる状態が僕はベストだと思うし、そういった意味で音楽は一生付き合えるお友達だと思いますね。



上ノ文化経営学研究所の同僚たち。シェーンブルン宮殿の敷地内の会議室で2年間行われた講義の最終日、全員での記念撮影。2010年。左ノ2010年6月、ウィーン国立音楽大学大学院文化経営学研究所での授業風景。ドイツ語で経営学を学ぶことはとてもハードでした。

2020年度
奨学生のご紹介

2020年度の
奨学生29人をご紹介します。

氏名[専攻] / 給付時の在籍学校 /
奨学生年度



ピアノ
秋山 紗穂

東京藝術大学大学院
2020年度



ヴァイオリン
有富 萌々子

ウィーン国立
音楽大学
2019、2020年度



ヴァイオリン
土岐 祐奈

ベルリン芸術大学
大学院
2019、2020年度



作曲
中橋 祐紀

パリ国立
高等音楽院
2020年度



ピアノ
野上 真梨子

ベルリン芸術大学
2018、2020年度



大関 万結
ヴァイオリン

ウィーン市立
音楽芸術大学
2019、2020年度



ピアノ
太田 糸音

名古屋芸術大学
大学院
2019、2020年度



チェロ
香月 麗

ローザンヌ高等
音楽院 シオン校
2019、2020年度



服部 百音
ヴァイオリン

桐朋学園大学
2019、2020年度



ピアノ
藤田 真央

ハンス・アイスラー
音楽大学ベルリン
2019、2020年度



ピアノ
古海 行子

昭和音楽大学
大学院
2020年度



木口 雄人
ピアノ(歌曲伴奏科)

ウィーン国立
音楽大学
2020年度



ピアノ
小井土 文哉

桐朋学園大学、
イモラ音楽院
2019、2020年度



齋藤 優貴
フランクギター

フランク・リスト・
ワイマール音楽大学
2020年度



松島 理紗
フクラム

ウィーン市立音楽
芸術大学大学院
2019、2020年度



三村 梨紗
「ドラムセット」

ハンブルク音楽
演劇大学大学院
2020年度



作曲
向井 響

ポルト大学大学院
2019、2020年度



阪田 知樹
ピアノ

ハノーファー音楽
演劇メディア大学
大学院
2019、2020年度



ピアノ
佐藤 元洋

ベルリン芸術大学
大学院
2019、2020年度



清水 勇磨
「バロン」

ポーロニヤ歌劇場
附設オペラ研究所
2020年度



作曲
向井 航

マンハイム国立
舞台芸術大学
2019、2020年度



山下 愛陽
「フラシツギター」

ベルリン芸術大学
2020年度



山本 明尚
「音楽学」

ロシア国立
芸術学研究所
2020年度



菅沼 起一
「音楽学」

バーゼル・スコラ・
カントルム
2019、2020年度



高橋 維
「ソプラノ」

ウィーン市立音楽
芸術大学
2020年度



田中 祐子
「指揮」

パリ・エコール
ノルマル音楽院
2020年度



吉見 友貴
ピアノ

桐朋学園大学
2019、2020年度



吉本 梨乃
ヴァイオリン

東京音楽大学
付属高等学校
2020年度



リード 希亜奈
ピアノ

パリ国立音楽院
2020年度



2019年度奨学生 報告会 2020年度奨学生 認定式

2020年8月、2019年度以前の奨学生の報告会と2020年度奨学生の認定式を開催し、38人の奨学生が参加しました。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションやローム株式会社の事業の紹介の後、奨学生より今後1年間の抱負や奨学金給付期間中の勉学状況報告を発表していただきました。

例年はローム株式会社 本社で開催している認定式・報告会ですが、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、WEB上での開催となりました。



ローム株式会社 松本社長からのお言葉 (抜粋)

我々のローム株式会社の企業目的には、

—— いかなる困難があろうとも、良い商品を国内外に永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする ——と書いてあります。

つまり文化の進歩向上に貢献する為に、ローム株式会社は存在しているということです。

ローム株式会社創業者である佐藤研一郎さんの「若い音楽家を育成し、文化の向上に貢献する」という強い思いでつくられたローム ミュージック ファンデーションは、1991年に設立して以来、30年間奨学援助事業を続けてまいりました。

この奨学援助制度を利用された多くの方がすでに世界で活躍されています。

皆さんも才能を一層開花させ、将来、世界一流の音楽家になられることをお祈りします。

Voice

参加した奨学生の声

- ・他の奨学生の方が積極的に活動されていたり、国内外で活躍されている様子を聞いて、刺激を受けました。
- ・他の奨学生の皆さんのお顔を見ることができて、とてもうれしい時間でした。
- ・このような時でも音楽を絶やさずに努力を続け、研修に励もうと改めて思いました。

例年、同時期に開催している奨学生の学びの成果を披露する場「ローム ミュージック ファンデーション スカラシップコンサート」は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、開催いたしませんでした。



©佐々木卓男
2019年度スカラシップコンサートより



新型コロナウイルス感染症下での

フレンズたちの STAY HOMEレポート

2020年1月から全世界に感染拡大した新型コロナウイルス感染症。

その影響は音楽界にも及び、多くのコンサートやコンクールが中止となりました。

公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションの主催・共催・助成コンサートも例外ではなく、2020年度は公演中止が相次ぎました。

そのような中、世界的に活躍するローム ミュージック フレンズの皆さんに、新型コロナウイルス感染症下でどのように過ごされていたか伺いました。

※このインタビューは2020年夏に行ったものです。当時の感染状況や感染対策を踏まえ、お話しいただいたため、発行月(2021年3月)の状況とは異なる部分がございます。あらかじめご了承ください。



そりた きょうへい

反田 恭平【ピアノ】

2013,2014年度奨学生

[奨学金給付時の在籍学校]

チャイコフスキー記念

国立モスクワ音楽院

— 新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、どのような生活を送られていましたか。

最初に始めたのはオンラインレッスンです。ぼくはまだ留学生でもあるので、自分の演奏を撮って、先生に聞いてもらってレッスンをするという形から始まったんですけど、録音する上で、携帯やiPadだと画質も音声も限りがあるんですよね。そこで良いマイクを買ってレッスンをしているうちに、先生と「良い音源に

なったね」という話になって、自分でパソコンをいじるようになって。結果noteっていうサイトでピアノ練習する子は絶対弾くであろうピアノの練習曲「ブルグミュラー」を、ブルグミュラーの生まれた年の値段付、1,806円で、25曲全部アップしました。さらに300円くらいで、自分が思うブルグミュラーの解説のようなレポートも売ったんですけども、正直ものすごい収益が出たわけなんですよ。自分でお金を稼がなければならぬという状況にジャンル問わずなって、それを自分でやってみたらすごく周りから好評でしたし、音楽家としてうれしい対価をいただいたっていうのは励みになった。自分の防音室、ホントにちっちゃいんですよ、6畳〜7畳くらいでピアノ置いたらもうスペースパンパンみたいなところで、自分で編集をして音源を売ったことがひとつ。

そしてまた自分でネットラジオを始めました。同じくnoteで自分の声を録って、自分が何を思っているかだったり何回か繰り返して、ラジオを売ったりしていました。コンサートが流れたり、活動ができなくなった分は、少なくとも自分で回収してみようっていう風に思っていたので、そういったことをやっていました。最初はしどろもどろだったんですけど、だんだん良いオリティのものが出て、それが決め手になって、NHKのラジオで自分の番組を持てるっていうところまでいったので、やった価値があったかなって。自分で動いて自分で次につなげられたっていうのは、非常にこのコロナ禍では、功を奏した感じになったかな。

ここまであくまで個人の話で、それとは別に、4月1日にHand in handの告知をさせていただいたわけですけど、そのHand in handは、名前の通り「みんなて手を取り合って、乗り越えていこう」っていう風な、意味合いで開催を考えたんです。やっぱりコンサートが流れてしまったりして、生きていくうえでやっぱりお金っていうのは非常に大事なものですし、勉強もできなくなっちゃうと話にならないので、同じ思いを持ったアーティスト達に自分で声をかけてみて。当時無料の配信っていうのが主流になってきたところだったんですけど、それを有料にしなければいけないんじゃないかっていうのが、どこか自分の中であって。個々のアーティストに対しては個人に対する対価っていうものをちゃんと支払ったほうが良いっていうのが僕の考えだったので。そしてまた演奏する場所がなくなってしまったことが我々にとって一番危惧されるころでもあった。演奏しないとどうなるかっていうのはこういう状況下にならないと分らなかつたことですが、結果アンサンブル能力がやっぱり少し低下してしまったのは事実かなと。かつソーシャルディスタンスで2mくらい空ける。その2つが重なると非常にひどい音楽になりかねないので、最初のアンサンブルは大変でしたね。だけでも、室内楽や小編成のものでしたら絶対にできるであろうっていうこともあって、2020年4月の緊急事態宣言が出る直前に、第1回をなんとか開催することができて。ある程度の収益が出たので、経費を引いて、余った金額をアーティストみんなに均等に割って、支払ったという感じだったので、本当に少しになっちゃったけど、第2回につなげることができたわけですね。そうやって第2回、第3回って、ちょっとずつ大きくしていくっていうのを理想としていたので、今非常に安定してきたかなっていう感じですね。

— オンラインだからこそ良かったことはあったのでしょうか。

何よりも、足腰が悪い方やご高齢の方に、見ていただける環境が整ったのは良いこと。東京で公演するって言うても、北海道からとか、なかなか遠征できないので、そういったのは良かったかなと思います。

— 逆にオンラインだからこそ難しかったことを教えてください。

難しかったことの1つ目は、最初の理解をしてもらうのに時間がかかったこと。有料配信だったのでバッティングも4月1日の段階ではあったし、メンタルもやられたんですけど、でも2ヵ月後になったらもう誰もがオンラインっていうのが当たり前言葉になりましたし、だから最初は難しかったけどだんだん浸透していったので、良かったかな。

2つ目に、慣れてしまったこと・配信が当たり前になってしまったこと。だから第2回からチケットの売り方も工夫しました。第1回ではチケットは1,000円だけでしたけど、第2回からは会場に30名限定でお客さんを入れることができて、それとはまた別に視聴券でしょ、更にCD付きチケットっていうのを作りましたね。ただ単に視聴するっていうことに飽き始めるころですので、何か特典だったり音源だったり、プレゼントみたいなものを添えるとすごく伸びたのは結果的に事実でした。

— 新型コロナウイルス感染症がモチベーションに影響しましたか。

4月、5月くらいは下がることがありましたね。ツアーも全部延期になったので、2年くらい先を見据えて考えたプログラムが全部ずれちゃったから、しんどくなったのはたしか。機材を買い始めたりして、なんでこんなに機械に囲まれて生きてるんだろうってズシンときちゃったこともありました。今はもう慣れたけど、当時はすごい疲

労感がきましたね、リモート会議とか、もっと気楽に喋れないのかなってなったり。

— 反田さんは新しいことにどんどん挑戦されていますが、怖さ・不安はないのでしょうか。

2020年の4月1日は恐かったですよ。Hand in handの宣伝のことを書いたTwitterの140字を投稿って押せなかつたですもん。また何か言われたらどうしようとか。だけど、いろんなアーティストと弾いてるうちにそういった不安もなくなってきたりしたので、それはやっぱり彼らに救われたし、音楽に還元しなきゃなって思う。音楽に還元したいことはたくさんあるし、人生1回きりだから、100年後「反田はあんなに叩かれた」っていうことよりも「何をやった」っていうことが残るから、そう考えれば良いかな、ってなりましたね。

— 今後挑戦されたいことを教えてください。

正直、自分のなかでやりたいことはやれてきているので、今やっていることを深めていくことが大事だろうなと思いますね。それこそHand in handも最初は5回くらいで十分かなと思ってたりしたけど、しばらくの間はやりたかあ、とは思っていたり。目指せ10回で。けども今一番やりたいのはアプリケーションを開発したいなと思っていて、いわゆる芸術面のコンテンツを全部ひとまとめにできるようなポータルサイトをつくって、要するにアーティストだったり、ホールだったり、土地だったり、背景だったり、っていうのを全部紙を使わないで宣伝できるものをつくりたいなと思ったり。とにかく、時代がすごく大きく変わっているさなかなので、そういったことも変わる必要があるのかなと思うし、やっぱり時代が変わるときって何かが潰れて何かが生まれるときでもありますから、だから、僕はそういったものを新しく開発し始めて、これからもっともっとスマートフォンユーザーの年代がコンサートに行く

時代になりますので、そこをやっぱり第一に考えなきゃいけないのかなと思っています。

Profile

1994年生まれ。2012年高校在学中に、第81回日本音楽コンクール第1位、聴衆賞。2015年チッタ・ディ・カントゥ国際ピアノ協奏曲コンクール古典部門優勝。MLMナショナル管弦楽団やレーベル[NOVA Record]のプロデュースなど、クラシック界の新しい可能性に挑戦している。F. ショパン国立音楽大学研究科修了。現在、同大学研究科(3期目)。第27回出光音楽賞受賞。



きくち ようこ
菊池 洋子 [ピアノ]

2002、2003年度奨学生
[奨学金給付時の在籍学校]
イモラ音楽院

— 新型コロナウイルス感染症の影響で、通常のコンサートの開催は難しい状況が続いています。菊池さんがこのような状況だからこそ新たに気づかれたことは何でしょうか。

8月初旬にオーケストラと演奏する機会が急に決まり、5ヶ月ぶりの演奏会となりました。久しぶりに聴くオーケストラの生の音が心に染み、お客様の前で演奏し、お聴きいただけることの喜びを全身で感じることができました。私にとって、これからの希望と励みになった、忘れることのできない再出発の日になりました。

このような大変な状況だからこそ、文化、芸術が心を癒し、日々の生活のエネルギーになるのだと感じます。

演奏会の開催に向けた、主催者やご関係の皆様のご尽力に心より感謝しております。

— Withコロナが叫ばれる今、どのような活動を展開していきたいですか。

私のやるべきことは、これまでこれからも変わることなく、日々の勉強に精進すること、1回1回の演奏会に最善の準備をして臨むことです。

これまでと違った環境での演奏を求められることもあるかと思うので、臨機応変に柔軟性を持つことを心がけて活動していくことも大切だと感じています。

— 奨学生をはじめとしたローム ミュージック フレンズの皆さんに、このような状況の中、何かメッセージはございますか。

演奏会の中止や延期が続いた3月からの約半年間、モチベーションを保つことが難しいときもありましたが、今できることは何かと自問自答し、新しいレパートリーを勉強するチャンスと気持ちを切り替えました。

2021年に延期となったローム ミュージック フェスティバルで、ローム ミュージック フレンズの皆様と再会し、ご一緒できることをとても楽しみにしています。

— 最後にお客様へのメッセージをお願いします。

ステイホーム期間中に、多くのアーティストが工夫を凝らしたインターネット配信を行い、家にいながら興味あるものを手軽に楽しむことができるようになりました。これも魅力的なひとつの形だと思いますが、演奏会は会場で聴いてくださるお客様がいてこそ成立するものだと私は考えます。緊張感やお客様との一体感などが、その瞬間にしかできない音楽を作り上げてくれます。今は安心して演奏会を楽しむことができない方も多いかと思いますが、近い未来に、会場でお会いできることを楽しみに、皆様の健康を心から願っています。

Profile

2002年第8回モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク室内管、フランツ・リスト室内管、南西ドイツフィルハーモニー、ベルリン響等と共演。バレエとのコラボレーション公演にも出演し、CD録音も活発に行う。前橋市Presents 舞台芸術祭芸術監督。2007年第17回出光音楽賞受賞。



みやた だい
宮田大 [チェロ]

2010～2012年度奨学生
【奨学金給付時の在籍学校】
クロンベルクアカデミー

— 新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、どのように過ごされていたのでしょうか。

最後に、演奏をホールでさせていただいたのが、2020年3月3日にあった浜離宮でのコンサートで、コロナの影響がちょうど拡大しつつあった時期だったため、ご来場されるかはお客様のご判断にお任せし、ご来場を控える方への配慮をした上で、ぎりぎり行えた公演でした。そこからホールでのコンサートがなくなり、各地でお会いできるはずだった方々にもお会いできず終わってしまった感じではあったりしました。新しい曲に対して今のうちにやっておこうとか、連載中のコラムを完成させたりとか、そういった時間に費やしました。あとは34歳になり、20歳の頃のような筋肉がある弾き方ではなく、地球の引力に逆らわないようなフォームでできればと、フォームや弓の持ち方を改めて研究していました。新型コロナウイルス感染症対策の上でやっとコンサートができるような環境になっていき、練習とともにお客様へ音楽をお届けしたいという気持ちが現実に見えてきてからは、

コンサートに向かう気持ちがいつものように戻ってきたのを覚えています。

— ソーシャルディスタンスを意識したアンサンブルは難しかったのでしょうか。

そうですね、アンサンブルも何ヵ月か空いて久々になってしまったので、久々だからこそ緊張感を持ちながら相手の音を聞いたりとか、それに敏感に相手のニュアンスとかを感じ取って、自分が表現するというのが、より一層今までよりも敏感に行っていた感じがあるので、ソーシャルディスタンスで離れたことで、やりにくいていうイメージよりは一緒にできて楽しいなっていう気持ちが大きかった。あと、やりとりっていうのが(コロナ以前の)近くで親密にできていたような気持ちのままだと「もっと近づきたいです」って文句を言うと思うんですけども、敏感になっていたので大丈夫だったっていうのはありますね。

— オンラインでのコンサートなども積極的にされていたと思いますが、いかがでしたか。

目前にお客さんがいるのといないのとでは全然やっぱり違う。演奏している側が空気をフツて変えた瞬間、お客さんの空気も変わったりとか、お客さんの唾を飲み込むような緊張感がこちらにも伝わってきて、それで一期一会の化学変化が起きるんですけど、配信のみだと、自分の音楽だけをお届けするような、一方通行でお客様にお届けしているような気持ちになっちゃうんです。なので、大変さっていうものはありました。良かった点っていうのは、やっぱりホールで聴いていると、手の感じとかを細部にわたって見られなかったりするんですけど、配信ですと、顔の表情だったりとか手の動き方とかっていうのも、すべて映してくださるので、音楽ファンだったりチェロが好きなお客さんがそこを見て勉強されたとか刺激がありましたっていう意見も

ありました。あとはやっぱり、クラシックホールへ足を運ぶのは、どこか敷居が高いイメージの方もいらっしゃると思うのですが、それが配信ですと緊張感無く楽しんでいただけるきっかけにはなったのかなと思います。

— 久しぶりにホールで演奏されたとき、感覚はすぐ取り戻せたのでしょうか。

公演の中止が続く中、最初にホールで演奏したのはNEWアルバムのレコーディングでした。レコーディングまでも2ヵ月くらい空いていて、その期間は家で過ごすことがほとんどでしたので、ホールで演奏することに不安や慌てる自分がいましたが、それより喜びが勝っていた感じでしたね。ずっと小さな部屋で独りきりで練習していたものがホールに出られて解き放たれました。まるで長いトンネルの中をさまよっていたところから出られた感じがしたのを覚えています。その喜びを噛み締め自分が表現したいものがホールの響きとともにでき、アルバムは完成しました。

— 今後挑戦したいことを教えてください。

クラシック音楽というとやっぱりホールで演奏してシンプルに生の音を聞いていただく、私たち演奏家は昔の名だたる作曲家がつくりあげた我が子のような楽曲を現代のお客様に伝えるというのが職業でもあります。新型コロナウイルス感染症によって、生の音を聴く機会が少なくなってきたなか、最先端の技術を使いライブ配信なども多くありました。私やクラシック業界のなかで、生の音で届けられないことに、最初はもどかしさや懸念感を抱いた方もいたと思います。ですがこれも受け入れざるを得ない、これも新たなクラシックの楽しみ方だと受け入れるようになりました。この一年はYouTubeのような、いろんな方々が視聴できる媒体に、クラシック業界からも



多くの方が参加しましたし、私もいろんなことにチャレンジしました。今後もさまざまなことにチャレンジし、クラシックを多くの方に届け、実際に会場で生の迫力を聴いてみたい、聴きについてみようというきっかけづくりができたと思います。

— 通常のコンサートを指して準備されていることはありますか。

ホールはリハーサルのときと、多くのお客様が着席されているときとでは響きや音色は全く違います。ホールはお客様が着席されて丁度よい響きになるように設計されています。なのでリハーサルから、お客様が多く着席されているのを想像し、響きや音色、弾き方をリアルタイムで訓練してきました。ですがコロナ禍でお客様が半数以下のときは、まるでリハーサルのような響きになります。これまでのような弾き方でなくても響きは十分にあるので、普段より音の輪郭をくっきりさせたり、テンポが速い曲は、少し遅めに演奏してお客様にハッキリ聴こえるリハーサルで取り組みました。今後もまだまだこういったことに敏感になり、その会場や動員数に応じ、もっとも良い音色をお届けしなければと改めて思いました。

— ローム ミュージック フレンズへのメッセージをお願いします。

最近TVで、過去に金メダルを取られた方がゲストでいらっやっていた番組を見ていたの

ですが、その番組の中でアスリートの方の諦めない姿や、諦めている時間があるのだったら自分にプラスになることをやっていこうという姿を見て、何かしら発信していく側の人は常に前向きでないとダメなんだと思いました。だから演奏会ができないと、少し落ち込むこともありましたけど、だからこそ今できるようなことを自分なりに見つけて、やっぱり皆さん課題があると思うので、それを見つめ直す時間にして、いつか晴れやかな日が来るように頑張ってほしいなっていうのは思いました。自分のやっていることを信じて自分の道を進んでいてもらえればなと思いますね。

— お客様へのメッセージをいただけますか。

演奏家はコロナの影響や、災害時に何ができるのか、音楽は必要なのかといつも考えます。この一年はこれまでに経験したことがないことが多くおきました。そのなかでより一層音楽というものが必要に感じ、音楽を聴いてパワーになったとたくさんの方にメッセージをいただきました。それを励みに演奏のサプリメントをお届けできればと思っております。もし身近にコンサートがありましたら、ぜひ足を運んでほしいですし、いろんな媒体とかも出てきたので、自分で好きな音楽を選ぶようになってほしいなっていうのはありますね。

Profile

2009年、ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。スイスのジュネーブ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。
使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1698年製A.ストラディヴァリウス“Cholmondeley”である。



きくもと かずあき
菊本 和昭 [トランペット]

2008年度奨学生
[奨学金給付時の在籍学校]
カールスルーエ音楽大学

— 新型コロナウイルス感染症が流行している中でのオーケストラのコンサートは、どのような点が難しいのでしょうか。

大きなキャパシティのホールで演奏をするので客席の密集度や、舞台上の密集度が、いわゆる感染を拡大しやすい状況にあるわけですよ。それが、薬やワクチンが開発されるまではなかなか元には戻らないのかなと思います。

— 管楽器ならではの問題と対策を教えてください。

息を楽器の中に吹き込んで演奏しているので、その空気が楽器の管の中で水滴になるわけです、それが管の中に溜まったままになると変な音になるので、水抜きをするんです。その水抜きをするときに微量の唾液も含まれていますので、それが飛び散るっていうのが一番大きいかなと。他の人にどれだけ移さないかっていうことが大事なので、距離を空けるっていうことと、今までは水を抜くときに、舞台上の床にそのまま落としていたんですけど、そうではなくて水抜き用のペットシートを舞台の上に置いておくんです。そのままだと格好悪いので自分で箱を作りまして(写真1)、木目のシールを貼って舞台に同化させるようにして、その中にビニール袋を入れて、袋の中にペットシートを入れて、この中に水を抜いて、終わったら袋ごと処理っていう、見た目も気にしながらできるだけ人に移さないっていうことですかね、気を付けていることとしては。



写真1

— 感染予防のため、奏者間の距離が通常より広めにとられるようになりました。アンサンブルは難しかったのでしょうか。

NHK交響楽団は2020年7月から活動を再開し始めたんですけども、めっちゃくちゃやりづらい、慣れるしかないのかな。金管楽器って後ろのほうにいますから、やっぱりコンサートマスター、弦楽器との距離が普段より遠くなくなっちゃうので、より弦楽器などを見たり注意を払うようになったかなという感じです。

— Webを使用して、リモート演奏なども行っていらっやいましたが、いかがでしたか。

(金管五重奏の多重録音をしたが)テンポを変化させることができないので、まずチューバの方がメトロノームに合わせて演奏されて、そのチューバの音を聞きながらトロンボーンの人が自分の音を録音して、それを編集して、それをホルンの人が聞いて…っていう風にしてやっていくのでこんな面倒なことはないです。あとYouTubeで一般公開はしてないんですけど、自分の生徒が学校も行けず暇をしていたので、トランペットを二人でデュエットをする曲集があるんですけど、それを僕がまず「この曲はこういうことに注意しようね」という

風にコメントして、見本で1番トランペットを演奏して、そのあとに僕が2番トランペットを演奏するので、そのときに生徒はそれを聞きながら一緒にデュエットができるっていう動画を68曲やりました。あんまり機械に強くないので、リモートで複数人での演奏とか多重録音とかって、僕の性格では良かったと思えることは少なかったです。

—演奏会の中止が相次ぐ中、モチベーションはどのような状態でしたか。

僕個人で言うと、実はNHK交響楽団が2020年2月半ばから3月頭にかけてヨーロッパツアーをしていたんですけども、その滞在中から、どんどん3月の演奏会が中止・延期になっていく。帰ってきて全部無くなって、モチベーションっていうところで言うところではゼロですね。やっぱり僕たちは本番のために練習をしているので、本番という目標が足元から消えていくと何やっていいのかわかっていない、そういう期間が2~3週間ありました。

—今後Withコロナが求められるかと思いますが、どのような活動を展開していきたいですか。

所属しているオーケストラがありますので、まずその活動を一番にやっていくということが大事だと思っています。やっぱり大人数での活動っていうのはまだまだ制限があると思うので、もともとソロやアンサンブルを積極的にやっているの、僕ともう1人のNHK交響楽団首席トランペット奏者の長谷川君と2人で演奏会をやったりするんですね。休憩時間のお客さんの密集状態というのが問題になっているので、そのコンサートは1時間プログラムを2種類用意しました。それぞれホールのキャパシティの半分しかお客さんを入れない、なんですがこの模様は

インターネットでもライブ配信する、その上1週間見逃し配信で見ることができるという風な演奏会を企画をして。それはもしかしたらこれからのスタンダードになり得るなって思います。これだけ通信機器が発展しているので、そういう楽しみ方が進んでいくのになっていうなかで、まずはそういうことをやっていこうかなと思っています。

—ローム ミュージック フレンズへのメッセージをお願いします。

置かれている立場は人それぞれだと思うんですけど、悲観をせずに今できることをちゃんとやるっていうしかないかなって。Withコロナといわれるなかで、新しい形として自分がどうあるべきか、ということを考える時間でもあるのかなっていうのはあります。やっぱり僕らの存在がまた必要になるときっていうのがちゃんとくると思うので、その時までめげずに頑張りましょっていうことですね。

—お客様へのメッセージをいただけますか。

ご自分のこととか、ご自分の家族のこととかを一番大事に考えて生活なさってください。僕たちが力を蓄えて皆さんにお届けできるようにしますので、皆様も力を蓄えて、普段のお仕事など大変かと思いますが、一緒にお互い頑張っていきましょう。

Profile

兵庫県生まれ。私立洛南高等学校を経て京都市立芸術大学を首席卒業後、同大学院首席修了。フライブルク音楽大学、カールスルーエ音楽大学で学ぶ。京都市交響楽団在籍後、2012年よりNHK交響楽団首席奏者に在籍。平成18年度青山音楽賞新人賞、平成24年度京都芸術新人賞を始め、第19回日本管打楽器コンクール第1位、第72回日本音楽コンクール第1位及び増沢賞、E.ナカミチ賞、聴衆賞等多数受賞。

ローム ミュージック フレンズからの

お便り

The letter from rohm music friends

ローム ミュージック フレンズから届いたご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 援助年度
給付時の在籍学校



打楽器の表現を更に自由に羽ばたかせて

いけがみ ひでき
池上 英樹 [パーカッション/マリンバ] 1998・1999年度奨学生
パリ国立高等音楽院・カールスルーエ音楽大学

最近クラシックの基本と演奏をどこまでも追求していくリサイタルと同時に、打楽器による自作自演の舞台も発表しております。フラメンコのダンスや打楽器のパフォーマンスが混然一体となった舞台です。伝統と前衛を行き来しながら表現の可能性を探り、各地での公演を重ねていっております。現在、富士山の麓に住んで思う存分練習できる環境ですが、これだけ雑音なく自分に向き合えるのは世界をたくさん見られたことが大きいと思っており、心から感謝しています!



上/モザイク・打楽器と踊りが一体となったパフォーマンス
下/水戸芸術館でのモザイク舞台全景



5枚目のソロアルバムを発売

したか みさ
志鷹 美紗 [ピアノ] 2007~2010年度奨学生
ベルリン芸術大学

2020年9月9日にCD「Recital of Misa Shitaka」をリリースしました。2019年に行われた東京オペラシティでのリサイタルと同プログラムの曲を収録。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどのコンサートが中止になったなか、地元広島島の教会で久しぶりのコンサートが実現し、お客様と音楽を通して気持ちがひとつになれる幸せを感じました。これからも人との出会い、つながりを大切に活動を続けていきます。



上/花束を受け取り、教会全体があなたに拍手を包みました。
下/フォンテックよりCDを発売。Youtubeで試聴もできます。



12年間のパリ留学生活を経て

ふくい まい
福井 麻衣 [ハープ] 2008~2009年度奨学生
パリ国立高等音楽院



上/東京藝術大学にパリ国立高等音楽院のモレッティ教授を招へい
下/瀬尾和紀フルート&福井麻衣ハープ・デュオCD

パリから帰国後、ソロ・室内楽を中心に活動しています。2020年はフルートとのデュオCDをリリース。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」のテーマ音楽の録音にも参加させていただきました。今の状況下、オンラインでできることも工夫しています!

また、東京藝術大学では後進の指導にあたり、2019年は母校・パリ国立高等音楽院より恩師モレッティ教授を招へい。日本の学生さんに夢と希望を与えてくださり、懐かしい空気を運んでくださいました!



歌手と教育者の両立を目指して

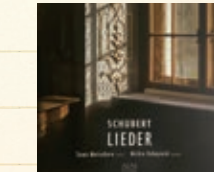
まつばら とも
松原 友 [テノール] 2008~2011年度奨学生
ミュンヘン音楽大学、ウィーン国立音楽大学



写真提供:公益財団法人東京二期会

新型コロナウイルス感染症の影響で多くの演奏会が無くなりましたが、ベートーヴェン・イヤーである2020年は、オペラ「フィデリオ」の公演(東京二期会オペラ公演、日本センチュリー交響楽団定期演奏会)に出演し、舞台上で歌う喜びを改めて実感することができました。

2019年12月には初めてのCD「シューベルト歌曲集」(ALM RECORDS/コジマ録音)を発売。現在は東京藝術大学などで非常勤講師を務め、演奏と教育を並行して活動しています。



上/東京二期会「フィデリオ」カーテンコール(松原さんは左から二人目)
下/2019年12月発売の「シューベルト歌曲集」(ALM RECORDS/コジマ録音)



誰かのために演奏できる幸せ

たにべ まさお
谷邊 昌央 [クラシックギター] 2000~2001年度奨学生
ケルン音楽大学



コロナ渦中の6月に4か月ぶりに聴衆の前でギターを響かせることができたとき、誰かのために音楽を演奏できることがいかに幸せなことなのかをしみじみと感じました。

2015年に邦人作曲家による素晴らしいギター・コンチェルトを世界に紹介したいと思い、ドイツのMDGレーベルからCDをリリースしました。帰国10年目になる2021年には「細川俊夫の世界」というテーマでリサイタルを行い、武満 徹さんと細川 俊夫さんの作品集をリリースする予定です。



上/細川俊夫氏にレコーディングとリサイタルのためのレッスンをさせていただきました。
下/CD「ロッシニアーナ〜ギターで聴くオペラの世界」



ブラームス国際コンクール

もりの みさき
森野 美咲 [ソプラノ] 2011年度奨学生
ウィーン国立音楽大学



ヨハネス・ブラームス国際コンクール声楽部門にて、第一位を受賞することができました。デュオを組んだ木口雄人さん(2020年度奨学生)は最優秀歌曲伴奏者賞を受賞し、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していたオペラやコンサート公演がキャンセルとなるなか、コンクールでの経験は大きな糧となりました。今後もウィーンを拠点にして、国内外で演奏活動をしていく予定です。どんな状況でも地道に努力を続け、良い歌が届けられるようこれからも邁進したいです。



上/コンクール会場のフェルデン城の庭園で
下/ヨハネス・ブラームス国際コンクールで第一位を受賞



東京音楽コンクールとブラームス国際コンクール

ありとみ ももこ
有富 萌々子 [ヴィオラ] 2019~2020年度奨学生
ウィーン国立音楽大学



第18回東京音楽コンクールに参加し、本選では日本フィルハーモニー交響楽団、指揮者の角田鋼亮さんと演奏し、第三位をいただきました。本選の次の日には飛行機に乗り、オーストリアでヨハネス・ブラームス国際コンクールに参加しました。私は第二位という結果でしたが、コンクール期間中も他の参加者とたくさん話したり演奏を聴いたりしたので、結果以上に得るものがたくさんありました。大変なスケジュールでしたが、挑戦して本当に良かったです。



上/ヨハネス・ブラームス国際コンクールにて
下/東京音楽コンクールのファイナリストの皆さんと、指揮者の角田鋼亮さんと

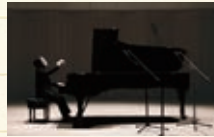


経験の熟成、音楽家として成長し続けたい

まるやま こうじ
丸山 耕路 [ピアノ] 2007~2009年度奨学生
デトモルト音楽大学、シュトゥットガルト音楽演劇大学



ドイツから帰国し10年が経ちました。10年前には分かっていなかったことが、ふと心に沁みするような感覚とともに、経験と一体を成して理解できる瞬間があり、改めて留学が今の自分にとって貴重な時間であったのだと実感しております。新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなかですが、少しずつコンサートも戻ってきています。数か月ぶりにホールで演奏した際、こみ上げてくる喜びに、音楽とともに生きていける幸せをかみしめました。



上/芸術高校での公開レッスン
下/パッハ作品のレコーディング(高島市民会館ガリバーホール:滋賀県)

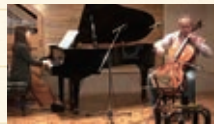


音楽とともに

つるみ あや
鶴見 彩 [ピアノ] 1997・1998年度奨学生
東京藝術大学大学院、カールスルーエ音楽大学大学院



音楽活動に対して2018年に石川県文化奨励賞、2019年には岩城宏之音楽賞をいただき、ユベール・スダーン氏指揮、オーケストラ・アンサンブル・金沢と共演させていただきました。地元金沢でいつも応援してくださる皆さんに温かく聴いていただき、胸がいっぱいになりました。大学などに後進の指導にも携わらせていただき、音楽とともに生きられることに感謝し、もっと精進していきたいと思う日々です。



上/ベートーヴェンピアノ協奏曲第4番をオーケストラ・アンサンブル・金沢と共演
下/コロナ禍で演奏の発信を試みています。チェロのL.カンタ氏と



希望をつないで

うえむら りよ
植村 理葉 [チェロ] 1997・1998年度奨学生
ローザンヌ音楽院



2020年2月のドイツでのコンサートは盛況でしたが、その後新型コロナウイルス感染症のため、東京文化会館でのリサイタルは2021年6月18日に延期になりました。2020年8月のヴァイオリン夏期講習は無事開催でき、レッスンやバッハのヴァイオリン無伴奏曲のレクチャー他、バッハのパルティータ第1番、シューベルトのソナタを演奏しました。2020年11月26日は東京で第1回ベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲演奏会を行います。カルテットの世界も探求していきます。



上/ピュシカルテット(ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会が始まります)
下/撮影中(シューベルトの歌曲を無伴奏ヴァイオリンに編曲しました)

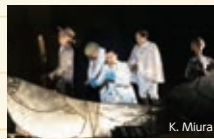


コロナ禍の先に見えるもの

なかじま としはる
中嶋 俊晴 [カウンターテナー] 2018年度奨学生
アムステルダム音楽院



2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で多くのコンサートが無くなり、自分自身や音楽と向き合う時間が増えた特別な年になりました。そんななか思いがけず令和2年度五島記念文化賞オペラ新人賞をいただきました。これまで大切に歌ってきたパロッドや歌曲の分野に加えて、オペラの世界でも積極的に活動できたいと思っています。また状況が落ち着いたら、ライブワークであるホスピスなどでのボランティア演奏にも更に入力していきたいです。



上/スペインの古楽アンサンブル Al Ayre Españolと共演
下/北とびあ国際音楽祭にてヘンデル(リナルド)エウスタツィオ役



スイスでの留学生活

すおう りょうすけ
周防 亮介 [ヴァイオリン] 2014・2015年度奨学生
東京音楽大学アーティスト・ディプロマコース、
メニューイン国際音楽アカデミー



スイスのメニューイン国際音楽アカデミーに留学して3年が過ぎました。世界的な音楽家の方々からご指導を受け、たくさんの刺激と音楽に対する情熱や追求心を受け、数々のコンサートを重ねながら貴重な経験と充実した時間を過ごしています。また、日本での公演にも恵まれ、スイスと日本を行き来しながら活動させていただける環境に感謝するばかりです。留学で得たものや感じたことを大切にこれからも深く音楽と向き合っていこうと思っています。



上/アカデミーにてレッスンしていただいたピンカス・ズーカーマン氏と
下/2020年1月の本番直後に指揮者の小林研一郎さんと(東京芸術劇場にて)

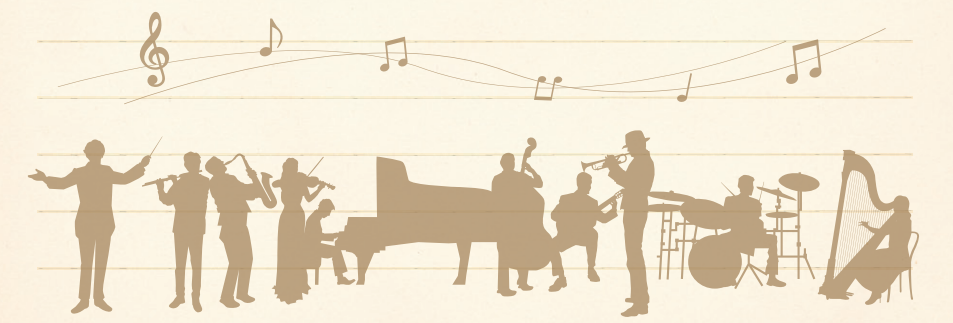


オペラ「魔法の笛」の上演

きはら よしなお
キハラ 良尚 [指揮] 2006~2009年度奨学生
ウィーン国立音楽演劇大学



2020年9月5日に、五島記念文化賞オペラ新人賞の研修成果発表として、バリトン歌手の宮本益光氏の構成による、モーツァルトのオペラ「魔笛」をもとにした「魔法の笛」を指揮しました。ローム ミュージックファンデーション主催の指揮者セミナーで小澤征爾さんがおっしゃっていた、「オペラとシンフォニーは車の両輪」という言葉を実現していけるように、今後も活動を続けていきます。また現在、東京混声合唱団常任指揮者として、活動の場を広げています。





奨学生レポートより



ひさすえ わたる
久末 航 [ピアノ]
2018・2019年度奨学生
ベルリン芸術大学



ベルリンもすっかり夏らしい季節となりました。2019年の今ごろは、毎晩そこかしこでコンサートやオペラ、演劇が盛んに上演されていましたが、2020年はコンサートホールやオペラ座はみな静まりかえっています。ここ数ヶ月間、違う世界に踏み込んだかのような異様な光景が続いています。

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、ドイツと日本で予定していたコンサートは軒並み中止に追い込まれました。そのなかには、現代を代表するドイツ人作曲家ヘルムート・ラッペンマン氏との対談式コンサートや、ベルリン・フィルハーモニーホールでのピアノコンチェルトの演奏依頼など楽しみにしていた本番が続いていたため、それらすべての中止・延期が決定されたときのショックは大きいものでした。

突如与えられたこのあり余るほどの時間をどう使うべきか、最初は戸惑いがありましたが、今振り返ると、じっくりと腰を据えて音楽そのものと向き合うことのできる、とても意義深い日々だったと感じます。今まで長らく挑戦したくともできずにいた曲や作品とゆっくり対峙したり、音楽とは全く関係のないことに心ゆくまで挑戦してみたりすることができました。

2020年6月ごろからベルリンでも規制が緩和されはじめ、小規模のコンサートの開催が可能になりました。マタイ教会でのコンサートは、入場規制によりこじんまりとしたコンサートでしたが、およそ3ヵ月ぶりに聴き手の方々の前で実際に演奏できる喜びとともに、新鮮なような懐かしいような感覚を覚えました。無観客の状況でカメラやマイクに向けて演奏するライブ配信と、実際に目の前に座ってじっと耳を傾けてくれている人々に向けて演奏するときでは、おのずと感情の持ち方や伝え方は変わります。新型コロナウイルス感染症の期間を経て、人前で演奏できることのありがたみを痛感させられる機会となりました。

奨学生として過ごした2年間。この2年間に吸収したものをこれからの音楽生活に活かせるよう、さらに貪欲に精進していきたいと思えます。

(2020.7)



ヴァイオリニスト アーニャ・フィロホフスカさんとのデュオコンサート(ベルリン・マタイ教会)



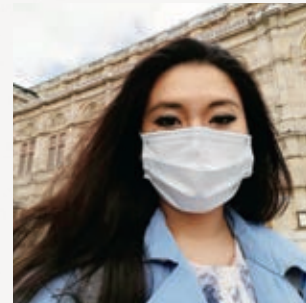
ライブ配信コンサート



まつしま りさ
松島 理紗 [ソプラノ]
2019・2020年度奨学生
ウィーン市立音楽芸術大学大学院



ウィーンでの留学生活もあっという間に1年が経とうとしています。つい半年前にはまさか世界がこのような状況になってしまうなど思いもしませんでしたが、あっという間にヨーロッパにも新型コロナウイルス感染症が拡大し、オーストリアは2020年3月15日にロックダウンに入りました。大学院の授業やレッスンなどは9月まですべてオンラインで行うことが早々に決定され、生活面ではライフラインであるスーパー、薬局などを除くすべてのお店が閉められました。ウィーン在住の友人らは2020年3月中にほとんど全員が日本へ帰国しましたが、私はウィーンに留まることにしました。声楽家は体さえあればどこにいても練習することができますし、オンラインでの大学院の授業やレッスンも質の高いものでしたのでロックダウン中も困ることはありませんでしたが、2020年5月に公演予定だったオペラや7月に予定されていたリサイタルなど、多くの本番が延期あるいは中止となったことは残念でした。この空白期間を、これまで時間が確保できなかったドイツ語の勉強にあて、ロックダウンの空白期間を有意義に使うことができました。



ウィーン国立歌劇場前にて

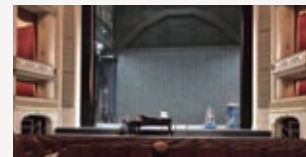
2020年6月、7月は怒涛のオーディションの日々で、ウィーン国立歌劇場でのオーディションをはじめ、国際的な大舞台にむけてのオーディションに多く参加させていただきました。なかでも非常に貴重な体験だったのは、ウィーン国立歌劇場のドミニク・マイヤー総裁に歌を聴いていただき直接フィードバックをいただいたことです。その時の温かく芯のある言葉が心に深く刺さり、忘れられない思い出となりました。

コロナ危機は、「なぜ音楽をするのか」を改めて考える機会となりました。私は次の世代にクラシック音楽を伝承していくのが自分の役割だと思っています。2020年11月には子供のころからの夢であるウィーン・モデルン現代音楽祭にて初演演奏をする機会もいただいております。現代音楽での活動をさらに広げていきたいと思えます。

(2020.7)



ヤング・アーティスト・プログラムの張り紙



ウィーン国立歌劇場舞台上にて



ローム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



むかい わたる

向井 航 [作曲]

2019-2020年度奨学生

マンハイム国立音楽舞台芸術大学



2020年6月26日、スイスのビールにて、同じ公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生の佐藤采香さんと、ベルン芸術大学の共同委嘱による『おどり子—Odoriko (2020) for Euphonium and Orchestra』が初演を迎えました。佐藤さんには、2019年、私が半年間のスイス交換留学中に大変お世話になり、その際に「ユーフォニアムのソロ楽器としての可能性を広げてほしい」という強い願いから、このオーケストラプロジェクトは発足しました。ベルン芸術大学のいろんな先生を巻き込んで、やっと実現することになったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で一旦初演は見合わせに。しかしリハーサルの1週間前にスイスへの入国が許可され、演奏会も可能に。そのためすべてのリハーサルに参加することができました。

スイスでのオーケストラ初演は初めてだったので、リハーサルはとても緊張しました。指揮者のカスパー先生は協力的にリハーサルを進めてくださり、佐藤さんと私に、曲をどうしたいかなど細かく確認してくださりました。また佐藤さんとも積極的に作品について意見交換を行い、フレーズの吹き方、曲の持つストーリー展開の確認を綿密に行いました。

この曲には、交換留学した際にスイスの大自然の中で聴いたKuhglocken (牛が脱走しないよう首につける、カウベルのような形をした鈴)とユーフォニアムの二重奏から始まります。そしてその旋律はさまざまな音楽を旅し、そこにはスイス-日本-ドイツの繋がりも重なっております。なにより、佐藤さんの「ユーフォニアムのレパートリーになりうる、未来を切り開くような作品になってほしい」という願いを強く込めました。今回の初演はとても評判が良く、お客様や学校関係者などさまざまな方に喜んでいただけ、非常に光栄でした。ドイツのメルケル首相が、「芸術は生命の維持に必要」と発言しました。私も本当にその通りだと思います。音楽の可能性を信じ、またこうして勉学が続けられる喜びを噛み締めて、これからも精進いたします。

(2020.7)



リハーサルの様子 (新型コロナウイルス感染症対策のため、管楽器の前には透明な板が設置されています)



素晴らしいソロを吹いていただいた佐藤采香さんと、演奏後に楽屋にて



ロームミュージックファンデーションブログでは、現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>



奨学生たちによる解説と演奏で、楽器を科学する

ローム クラシック サイエンス演奏企画

クラシック音楽と科学。一見、無縁のようですが、クラシックの演奏に欠かせない楽器や、愛されつづける名曲には、科学で解明したくなる、不思議な世界があります。ロームミュージックファンデーションは楽器にまつわる科学的な情報を「ロームクラシックサイエンス」シリーズとして長年連載しています。新型コロナウイルス感染症の影響でご自宅に

いることが多くなった皆様に楽しんでいただけるよう、「ロームクラシックサイエンス」をローム株式会社とともに奨学生の解説と演奏でお届けしました。今回お届けした楽器は、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルート、トランペットの5種類。楽器と音楽の魅力がたっぷり詰まった動画を撮影してくれましたので、ぜひご覧ください。



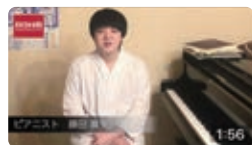
その他にもたくさんの楽器を科学しています。

ロームクラシックサイエンスはこちら

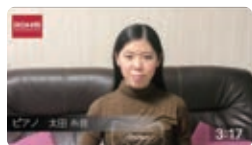




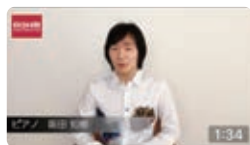
ローム クラシック サイエンス演奏企画に参加した奨学生



藤田 真央 [ピアノ]



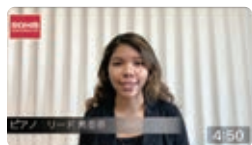
太田 糸音 [ピアノ]



阪田 知樹 [ピアノ]



五十嵐 薫子 [ピアノ]



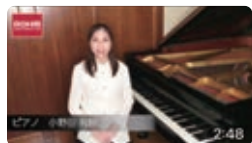
リード 希亜奈 [ピアノ]



佐藤 元洋 [ピアノ]



秋山 紗穂 [ピアノ]



小野田 有紗 [ピアノ]



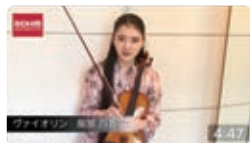
野上 真梨子 [ピアノ]



古海 行子 [ピアノ]



大関 万結 [ヴァイオリン]



服部 百音 [ヴァイオリン]



土岐 祐奈 [ヴァイオリン]



外村 理紗 [ヴァイオリン]



吉本 梨乃 [ヴァイオリン]



香月 麗 [チェロ]



森田 啓佑 [チェロ]



八木 瑛子 [フルート]



三村 梨紗 [トランペット]

解説・演奏動画はこちら
ローム株式会社 Facebook



ロームシアター京都 ミュージックサロン

ロームシアター京都の開館と同日である2016年1月10日にオープンしたミュージックサロン。音楽とさまざまな形で触れ合うことができる施設として各種イベントを開催し、これまでにご多くのお客様にご来場いただいています。

■「ミュージックサロン」施設概要

場 所：ロームシアター京都 パークプラザ3階東側

面 積：約96㎡

定 休 日：臨時休館日を除き年中無休

営 業 時 間：10:00～19:00

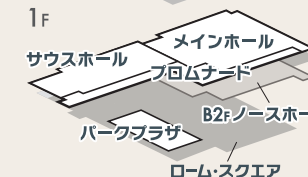
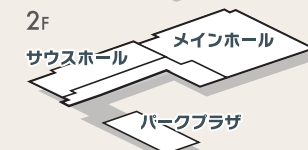
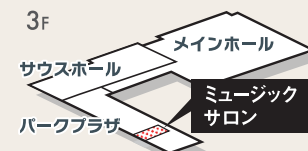
※定休日や営業時間は新型コロナウイルス感染症のため変更している可能性があります。

利 用 料 等：無料、原則出入り自由(一部整理券が必要な場合あり)

主 要 設 備：7.1chサラウンドシステム、120インチスクリーン
プロジェクター、演奏スペースなど

主な開催内容：コンサートなどの映像・音源の放映、
イベント(コンサート、セミナー、資料展示等)の開催

ロームシアター京都 館内マップ



©上田祐勢



過去のイベントの様子(2019年度スカリッパ展より)

奨学生一覧

(各分野五十音順)

ヴァイオリン/107人

青木 尚佳
青谷 友香里
アシュリー マリア アヤ
東 珠子
菅井 京子
菅井 優利奈
安彦 千恵
伊賀 あや
石橋 幸子
泉原 隆志
磯 絵里子
糸井 真紀
伊藤 文乃
井上 奈央子
上野 明子
植村 太郎
植村 菜穂
植村 理葉
牛草 春
エリック・シューマン
尾池 亜美
王 中男
大江 馨
大岡 仁
大島 莉紗
大関 万結
大谷 玲子
岡崎 慶輔
岡本 誠司
小川 恭子
小野 明子
榎本 大進
加野 景子
神尾 真由子
神谷 未穂
川村 奈菜
木嶋 真優
岸本 萌乃加
北川 千紗
城戸 かれん
木村 悦子
清永 あや
日下 紗矢子
倉富 亮太
黒川 侑
郷古 廉
小林 杏成
小林 美緒
小林 美樹
佐橋 まどか
佐藤 久成
篠原 悠那
志満 直美

島田 真千子
島原 早恵
清水 有紀
白井 麻友
菅井 京子
鈴木 愛理
鈴木 舞
周防 亮介
高木 凜々子
滝 千春
瀧村 依里
田島 悠子
立上 舞
田中 晶子
田中 晶子
谷本 華子
玉井 菜探
千葉 水晶
辻 彩奈
坪井 夏美
土岐 祐奈
長尾 春花
中島 麻
中村 太地
成田 達輝
西川 茉莉奈
西澤 和江
二瓶 真悠
服部 百音
林 悠介
原 麻里亜
原田 亮子
福田 廉之介
藤江 扶紀
外村 理紗
前田 志乃
正戸 里佳
松川 暉
松田 理奈
三上 亮
村田 美英
村田 美穂
毛利 文香
守屋 剛志
森山 まひる
安田 理沙
矢野 玲子
山根 一仁
梁 美沙
弓 新
湯本 亜美
吉江 美桜
吉田 南
吉本 梨乃

米元 響子
渡邊 ゆづき
ヴィオラ/13人
赤坂 智子
有富 萌々子
大野 若菜
金丸 葉子
坂口 翼
杉田 恵理
瀧本 麻衣子
田原 綾子
中島 悦子
原 麻理子
牧野 葵美
山崎 智子
渡邊 千春
チェロ/38人
伊東 裕
伊藤 悠貴
上野 通明
植村 葉夏
江口 心一
遠藤 真理
木本 侑也
奥田 なな子
香月 麗
加藤 文枝
門脇 大樹
上村 文乃
唐沢 安岐奈
熊澤 雅樹
佐々木 蘭望
笹沼 樹
佐藤 晴真
高木 慶太
辻本 玲
中木 健二
長谷川 彰子
林 裕
榎本 瑠音
平野 朝水
藤井 泉
藤原 秀章
堀江 牧生
松山 翔子
マーク・シューマン
水野 優也
三井 静
峰本 更
宮田 大
森田 啓佑
山上 ジョアン 薫

山本 徹
横坂 源
渡邊 方子
クラシックギター/6人
齋藤 優貴
谷辺 昌央
藤元 高輝
松本 大樹
山下 愛陽
山田 唯雄
ヴィオラ・ダ・ガバ/1人
酒井 淳
フルート/20人
阿部 礼奈
井坂 実樹
岩瀬 桐子
上野 星矢
大久保 彩子
久保 順
倉田 優
小山 裕幾
庄田 奏美
瀧本 実里
山山 愛
中村 薫
萩原 貴子
藤井 香織
本宮 湖心
増本 竜士
森岡 有裕子
八木 瑛子
若林 かをり
渡邊 玲奈
オーボエ/4人
荒 絵理子
岡山 理絵
田代 奏子
本多 啓佑
クラリネット/10人
梅原 希枝
金子 平
小林 知世
小山 洋子
白子 正樹
辻本 聡子
中川 知美
原田 綾子
福田 さあや
吉田 誠
サクソフォン/2人
住谷 美帆
中島 諒

ファゴット/3人
小山 莉絵
中野 陽一郎
藤村 踊子
トランペット/3人
菊本 和昭
佐藤 友紀
三村 梨紗
トロンボーン/2人
清水 真弓
山本 浩一郎
ユーフォニアム/2人
安東 京平
佐藤 采香
打楽器/5人
池上 英樹
岩見 玲奈
峯野 勢津子
通崎 睦美
福山 直子
ハープ/5人
景山 梨乃
シュレイファー 弓子
高野 麗音
林 千佳世
福井 麻衣
パイプオルガン/1人
椎名 雄一郎
チェンバロ/2人
北御門 はる
脇田 英里子
ピアノ/139人
秋山 紗穂
浅野 未麗
有吉 亮治
五十嵐 薫子
石井 楓子
石川 武蔵
石田 啓明
石村 純
乾 絵美
今井 彩子
今田 篤
入江 一雄
岩本 恵理
梅村 知世
江澤 茂敏
江尻 南美
岡田 奏

大井 浩明
大崎 結真
太田 糸音
大西 真由子
岡本 麻子
奥田 晓仁
奥村 友美
小沢 麻由子
越知 晴子
小野田 有紗
海瀬 京子
梯 剛之
柏原 佳奈
加藤 大樹
加藤 洋之
加野 瑞夏
神野 千恵
河内 仁志
川崎 翔子
川島 基
川田 健太郎
河村 尚子
菊池 裕介
菊池 洋子
木口 雄人
喜多 宏丞
清塚 信也
日下 知奈
工藤 奈帆美
久保 千尋
倉澤 杏菜
黒岩 航紀
黒田 哲平
小井土 文哉
高 実希子
壽 千明
小林 愛実
小林 有沙
小林 海都
齊藤 一也
阪田 知樹
坂本 真由美
崎谷 明弘
佐々木 宏子
佐竹 裕介
佐藤 卓史
佐藤 彦大
佐藤 麻理
佐藤 元洋
佐野 まり子
紫垣 英二
志鷹 美紗
釈迦郡 洋介

白川 多紀
菅野 雅紀
鈴木 謙一郎
住友 郁治
関本 昌平
芹澤 佳司
反田 恭平
高田 匡隆
高橋 礼恵
内匠 慧
田中 香織
田中 正也
田村 響
千葉 遥一郎
津嶋 啓一
津田 裕也
鶴見 彩
土居 知子
中尾 純
中桐 望
中島 彰
長瀬 賢弘
中元 千鶴
奈良 希愛
新美 光映
沼澤 淑音
野上 真梨子
萩原 麻未
橋本 尚
服部 慶子
花岡 克典
浜野 与志男
林田 麻紀
樋口 一朗
久末 航
日高 志野
平松 悠歩
福田 和子
藤田 真央
古海 行子
真隅 政大
松尾 久美
松岡 淳
松本 和将
丸山 耕路
丸山 瓜乃
萬谷 衣里
Elezovic MIA
三浦 友理枝
三戸 あけみ
三宅 麻美
宮下 彩子
宮田 理生

務川 慧悟
村田 理夏子
村松 珠美
森田 義史
矢島 愛子
山田 剛史
山本 亜希子
吉兼 加奈子
ティーテン 吉川 右希子
吉田 友昭
吉武 優
吉見 友貴
米津 真浩
李 早恵
リード 希亜奈
脇岡 洋平
オルガン/2人
福本 茉莉
宗 かおり
声乐/61人
石井 教子
市原 愛
乾 麻里子
上杉 清仁
江口 輝博
大島 京子
岡田 昌子
加藤 史幸
加藤 麻衣
川島 幸子
川原 成子
木下 周子
木下 美穂子
木村 善明
木村 里花子
蔵田 みどり
小玉 晃
小林 沙羅
近藤 圭
崔 宗宝
坂本 知亜紀
志摩 大喜
清水 俊徳
清水 勇磨
周 江平
杉原 かおり
鈴木 愛美
高橋 維
田邊 暎恵
谷口 伸
谷村 由美子
田村 麻子

趙 非
津國 直樹
辻 裕久
寺田 功治
田大成
富岡 明子
中川 恵美里
中嶋 俊晴
中島 康晴
鳴海 真希子
林 佑子
深瀬 廉
藤本 大地
藤谷 佳奈枝
本田 智衣
又吉 秀樹
松島 理紗
松原 友
真野 路津紀
満洲 悠理
向井 航
峯島 望美
宮里 直樹
森野 美咲
山下 新吾
山本 美央
吉澤 淳
吉田 貴子
監 野流
李 恩敬
指揮/22人
栗辻 聡
石川 皇太郎
伊藤 翔
垣内 悠希
川本 貢司
岸本 有理
鬼原 良尚
齊藤 一郎
阪部 慎太郎
篠崎 靖男
下野 竜也
杉本 優
橋 直貴
田中 祐子
寺岡 清高
阪 哲朗
三ツ橋 敬子
村上 寿昭
谷口 伸
森 香織
森口 真司

森田 宏樹
作曲/22人
阿部 俊祐
稲森 安太己
今井 智景
北爪 裕道
木下 正道
小出 稚子
酒井 健治
坂田 直樹
塚本 瑛子
中川 佐織
中橋 祐紀
夏田 昌和
朴 炳五
松宮 圭太
松本 直祐樹
ママトウメル
向井 響
向井 航
山口 紘
李大軍
渡邊 愛
渡辺 裕紀子
教会音楽/1人
小山田 薫
音楽学/18人
金 士友
真方 マキ子
原 耘
白石 悠里子
菅沼 起一
関本 菜穂子
園田 みどり
高野 裕子
東田 範子
戸祭 哲子
中村 伸子
西村 理
畑野 小百合
早坂 敦子
丸山 瑠子
村田 圭代
山本 明尚
李 金叶
オペラ演出/4人
井原 広樹
郭 才銀
馬 金泉
森岡 純子

計 493人
(2021年3月現在)

Rohm Music
Foundation 
ロームミュージックファンデーション



ローム ミュージック フレンズ No.11

—ロームミュージックファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2021年3月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

〒615-0046 京都市右京区西院西満崎町44

TEL(075)311-7710 FAX(075)311-0089

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛： **ローム株式会社**

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。